

1 題材名 「自他の安全のために」

2 目標

I-4 地域や社会生活での安全

地域・社会で起こる犯罪や危険について理解し、安全に行動できるようにするとともに、安全・安心なまちづくりを目指す。

3 生徒の実態

1年生は、普段は落ち着いた生活をしている。しかし、昼休みに廊下で遊ぶ等、生活安全上改善すべき課題が見受けられる。そこで、9月から「あしたば運動」という安全キャンペーンを実施している。「あしたば」は、「**あ**るこう・**し**ずかに・**た**まらず・**ば**をわきまえて」の頭文字で構成された言葉で、第1学年生徒が考えたものである。

2年生は、活気があり、学校生活に前向きに取り組んでいる。しかし、他者の安全への意識に課題があり、休み時間など廊下を走り回っている姿が見られる。登下校等においても、道路に広がって歩いたり、話に夢中で周りに注意を払わなかったりするなど、危険な行動が見られる。

3年生は、校舎内を走り回ったり、ふざけ合ったりする生徒は少なく、落ち着いた学校生活を送っている。避難訓練やセーフティ教室等では、真面目に取り組む生徒が多い。しかし、一方では、登下校時に周囲の状況を考えずに横に並んで歩く、携帯電話によるトラブルに巻き込まれる、自転車の安全な利用の仕方に課題があるなど、学校外での安全に対する意識に課題があり、自らの安全を確保できる力が身に付いていない生徒もいる。

4 題材と「日常的な安全指導」「定期的な安全指導」「特設する安全学習」との関連

「日常的な安全指導」として、朝の会や帰りの会などにおいて、「必ず指導する基本的事項」を計画的に指導している。朝礼、全校集会において、生活指導部から学校生活の安全や登下校の安全、全校での約束事、個人が気を付けることを繰り返し指導している。

「定期的な安全指導」として、セーフティ教室、年度初めオリエンテーション（1年）、情報モラル講習会（1・2年）、長期休業前全校集会時のしおり読み合わせ等において、安全に生活するために気を付けることについて指導している。

「特設する安全学習」として、各教科における学習はもとより、特別活動の時間において、「生活安全」「交通安全」「災害安全」に係る学習を行っている。1年ごとに重点テーマを設定し、全校で取り組んでいる。

5 目標に迫るための指導方法の工夫

- 地域の現状について捉えさせるために、区の安全・安心メールの内容や報道ニュース等を提示する。
- 遊び、塾、買い物等、学校外の日常生活における場面を想起させ、自身の行動の仕方等に危険が潜んでいないか自己点検をさせる。
- 気付いたことを発表し合うことで、互いに情報を共有させる。
- 危険やその対処について考える際、視点を変え、中学生ならば大丈夫だが、幼児や小学生、高齢者には危険かもしれないという場面や場所、時間帯について考えさせ、意見交換を行わせる。
- 中学生が地域の安全のために、どのような貢献ができるかを考えさせ、発表させる。実現可能な方策については、生徒会に提案し実現させていくようにする。また、生徒会の取組で力を入れている「あいさつ運動」は、地域の安全に貢献できることを確認し、校内だけでなく、地域に広がる取組とさせていく。

6 指導計画（2時間扱い）

時間	主な学習活動	安全教育の視点に立った留意点
1	<p>【日常生活における自分の行動を振り返ろう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○登下校時、遊び、買い物、塾等、自分の日常生活を想起し、危険な場所、時間帯について考える。 ○気付いたことをクラスで発表し合い、情報を共有する。 ○危険を回避するための方策を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎特に、生活安全の視点で考えさせる。 ◎同じ道でも、場所や時間帯により安全の度合いが違ってくことに気付かせる。 ◎様々な危険について知る。 ◎安全のために情報を共有することの大切さを認識させる。
2	<p>【地域の安全のためにできることを考えよう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○幼児や小学生、高齢者の立場に立って、再度地域の安全について考える。 ○安全のために自分たちにできることを考え、クラスから生徒会に提案する。 ○挨拶が防犯に効果があることを知り、学校外でも積極的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分以外の人の安全にも、気付かせる。 ◎中学生としての役割や、地域に貢献できることについて考えさせる。




7 本時の展開

第1時

(1) ねらい

- ・犯罪等の現状を知り、安全な行動の仕方を確認する。
- ・情報交換により、日常生活に潜む危険とその対処について考える。【I-4-⑧】

(2) 指導の実際

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価（評価方法）
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○「は・さ・み」や「い・か・の・お・す・し」の約束を確認する。 ○日常に潜む危険（犯罪）には、どのようなことがあるか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎最近起こった、行方不明や通り魔等の事件について紹介する。 ◎区の「安全・安心メール」の一覧を配布し、生徒が地域の現状について捉えることができるようにする。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の日常生活に危険が潜んでいないか、ワークシートを用いて、各自点検する。  <ul style="list-style-type: none"> ○班で発表し合い、互いの情報を共有する。ワークシートに、班のメンバーから出された意見をまとめる。  <ul style="list-style-type: none"> ○班で話し合った内容を学級全員に発表し、情報を共有する。 ○班で出された、予測される危険それぞれについて、どうすれば自分の身を守ることができるか、班で話し合う。 ○班で考えた、危険から自分の身を守るための方策を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎昼間は安全でも夜間はどうか、人通りはどのくらいかなど助言し、様々な視点について考えさせる。 ◎拡大した学校周辺の地図を班に1枚配布し、班のメンバーから出された意見を地図に書き込むよう指導する。 ◎自分の日常生活の中にも、危険が潜んでいることに気付かせる。 ◎危険を回避するための方策を具体的に考えさせる。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習を振り返る。 ○ワークシートに、予測される危険に対してどのように回避するのかまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■普段の生活に危険が潜んでいることに気づき、自分の身を守る行動について、具体的に記述している。（ワークシート）

(3) 評価



自身の日常生活を振り返り、起こりうる危険やその対処について考えを深めることができたか。

第2時

(1) ねらい

- ・地域で生活する様々な人の立場から安全について考える。
- ・地域の安全に貢献するために、中学生ができることを考える。 【I-4-9】

(2) 指導の実際

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価（評価方法）
導入	<p>○前時の振り返りから、危険を予測し回避することが自分の身を守ることにつながることを確認する。</p> <p>○本時のねらいと学習内容を理解する。</p>	<p>◎前時に生徒から出された意見を基に、場所、時間帯による安全に関する資料を作り、提示する。</p> <p>◎地域全体の安全のために、中学生にできることがあることを伝える。</p>
展開	<p>○同じ地域で生活する人々の安全を確保するために、中学生ができることを考える。</p> <p>○自由な発想で意見を出し合い、生徒会に提案する実現可能なアイデアを作る。</p> <p>○班で出た意見を学級全員に発表し、情報を共有する。</p> 	<p>◎生徒が、様々な立場から考えられるよう、家族、幼児、小学生、高齢者等、対象を具体的に示す。</p>  <p>◎地域で、町の安全のために行われている活動を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区の安全・安心パトロール ・学校のPTAやおやじの会のパトロール ・町会のパトロール
まとめ	<p>○本時を振り返り、地域の安全のために、自身に何ができるかを考える。</p> <p>○生徒会に提案する事項をまとめる。</p>	<p>◎生徒から出された意見をまとめるとともに、特に、挨拶はよりよい人間関係を築く第一歩であるとともに、防犯にも役立つことを伝える。</p> <p>■地域の安全のために、生徒会に提案することを考え、記述している。（ワークシート）</p>

(3) 評価

地域の安全のために、自身ができることを具体的に考え、できることから実践しようとしているか。